

## 第2期「ている塾」課題検討における調査方法について

相手に失礼にならないように配慮して質問項目をつくる。他人の協力によって成り立つことを理解し、相手に対する敬意をもって調査する。

### 1. 数字で表す「定量調査」＝アンケート

- ・ 「What」＝「何が、どれが」を知るための調査
- ・ グラフにできる
- ・ クロス集計。どことどこをクロスさせるのかを考えてアンケートを設計する。
- ・ ニュートラルに客観的に聞く。いろんな立場の人がいることを踏まえて、傷つけるような聞き方はしない。
- ・ 数値の分析をすることが大切。

### 2. 本音を探る「定性調査」＝インタビュー

- ・ 「Why」を知るための調査
- ・ 対象者の意見や行動を知り、深層心理を探る調査
- ・ 1対1で聞く場合と、グループインタビューをする場合がある
- ・ 潜在的なニーズ、生の声を抽出できる
- ・ 感情、感情の理由、感情の背景を聞く

### 3. 今ある統計データを利用する

統計や調査に基づいた数値データはとても有効です。

皆さんの課題テーマに利用できるデータを最大限活用してください。

- ・ 第1回目に配布したブルーファイル内の資料  
「令和元年度 沖縄県の男女共同参画の状況について」
- ・ グラフで見る「沖縄県の女性の現状と課題（沖縄労働局）」  
<https://jsite.mhlw.go.jp/okinawa-roudoukyoku/content/contents/000628888.pdf>
- ・ 内閣府男女共同参画局 基本データ  
<http://www.gender.go.jp/research/index.html>

\*参照・引用したデータは発表資料に出所を明記することを忘れないでください。

\*アンケートでは本音を探ることが難しい。

【例】

Q、病気療養中で残業や長時間勤務ができない従業員は、できれば辞めてくれたほうが良いと思ってしまうことはありますか。

- ある
- ない

その立場にいる当事者がどう感じるかを考え、アンケートで本音を聞く場合は、プラスとマイナスの選択肢を用意して、誘導質問を避けニュートラルに聞きます。

【修正するとしたら】

Q、あなたの職場で同僚が病気療養から復帰してきました。しかしまだ残業ができません。そのとき、あなたはどう思いますか？当てはまるものすべて○をつけてください。

- 1、今は職場を気にせず身体を大事にしてほしいと思う
- 2、自分もその立場になる場合があるので、療養しながら働ける環境は必要だと思う。
- 3、ワークライフバランスのとれた職場づくりが進むと思う
- 4、ほかの社員の負担が増えるので困ると思う
- 5、残業ができないのなら、退職してくれればいいのと思う
- 6、その他